

「山野小学校の石井鎌手踊り伝承活動の取組」

1 学校名

伊佐市立山野小学校

2 学年・人数

第6学年（13人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

令和元年11月～令和2年2月

山野小学校体育館

（2）発表の日時・場所

令和2年2月8日（土）

山野小学校学習発表会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

（1）名称

石井鎌手踊り（いしいかまんでおどり）

（2）由来

伊佐市山野の石井地域に古くから伝わる伝統芸能である。歴史は様々な説があるが、戦後（昭和25年頃）から写真に残されており、当時は「6尺棒に6尺棒」「6尺棒に鎌」の踊りであった。1950年頃には男性不足から女性が踊ったこともある。なお、現在の「鎌と長刀」のスタイルは1960年頃から踊り継がれているようである。

（3）構成等

鎌2人、長刀2人の4人組が4グループ、合計16人で踊る。鎌は柄の長さ1尺5寸位、柄のつけ根のカネには房をつける。長刀は柄が5尺2～3寸、房はつけない。どちらも檜の木で作る。服装は白浴衣、腰を少しつぶり、手甲、脚絆、白足袋、武者ワラジ、タスキ、鉢巻姿といういで立ちである。歌詞は、出端の道歌「今こそ参る、神にモノメイ（物詣り）」にはじまり、中「清めの雨は、三度パラパラ、焼け野の雉は岡の瀬にすむ」とあり、引端の道歌は「今こそかへる。神にモノメイ」と歌われている。

5 保存会や地域との連携の具体

3年前から総合的な学習の時間を活用し、郷土芸能に関する学習の取組を進めてきた。保存会は会員の高齢化に伴い、存続か消滅かといった後継者問題に直面している状況であった。現在、山野小では保存会の方々と連絡を取りながら、地域の伝統芸能の保存に向け、無理をせず長期的視野に立ち、取り組んでいく方向で活動を進めている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地域の伝統芸能継承学習として、総合的な学習の時間の中で「守ろう山野の宝」というテーマの下、年17時間の授業を設定した。

主な学習内容は以下のとおりである。

- (1) 課題を設定する。(1時間)
- (2) 保存会の方から踊りの歴史や伝承活動に対する願いを学ぶ。(1時間)
- (3) 踊りやたすきがけについて実際に指導を受ける。(8時間)
- (4) 調べたことをまとめる。(2時間)
- (5) 学習発表会で発表する。
- (6) 地域に伝わる伝統芸能の継承について学習をする。(3時間)

今後も地域と連携した学習が継続して展開できるように、3学期に、5年生への踊りを継承する時間(2時間)を設ける工夫を図った。

7 取組の様子(練習状況、発表の場等)



保存会の方々による指導



学習発表会での発表

8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【参加児童】

地域に伝わる石井鎌手踊りを保存会の方々の指導のおかげで踊れるようになった。踊りは学習発表会で披露し、多くの人に褒められてうれしかった。5年生にしっかりと伝統を引き継ぎたい。

【保存会から】

石井の踊りを山野小で踊っていただくので、地域の方々の反応が気になったが、いい反響をいただいてうれしい。これからも指導や継承につなげていきたい。また、長期的な取組として活動していただきたい。

【保護者から】

2学期から家でも練習を頑張っていた。学習発表会で立派に踊る姿を見て感動した。指導してくださった保存会の方々に感謝の気持ちでいっぱいである。

【教員から】

保存会の方々の伝統芸能を継承したいという熱い思いを痛感した。子どもたち13人もそれを感じ、精一杯努力し踊りを覚えた。由来とともに踊りを5年生に継承し、山野のよき財産としてほしい。